

農作物の第 6 次産業振興事業推進に関する提言書

リーダー	遠山	広志
委員	實原	恒禎
委員	井原	敏喜
委員	唐澤	浩平

1. 提言の趣旨と目的

- (1) 昼神温泉や観光業と連携し、旅館・ホテルに高品質な阿智村産ジビエの、安定供給できる環境を整える。
- (2) 阿智村産の農産物を使用した果実酒への取り組みと昼神温泉リニア新時代構想における阿智ブランドのネーミングの構築。

2. 経緯報告

(1) 「有限会社 あちの里」視察

南信州「こだわりの加工食品」として阿智村産の農産物、自社農場のしまうりの粕漬・清内路伝統野菜のあかね大根甘酢漬・みょうが甘酢漬など阿智村の 6 次化を牽引されておられることを、詳しく説明していただきました。

(2) 「阿智村産業振興公社」視察

取り扱う農産物の種類、流通経路についてと栽培指導の充実を図りながら、村内外直売所等への積極的な販路拡大、SNS を活用した各イベントの PR 活動、ふるさと納税の有効活用などにより、新たな顧客の取り込みを目指して活動していること、阿智村産農産物を使用しての果実酒事業を計画されていることもお聞きしました。

(3) 「株式会社 ちさと東」視察

川路工場の視察をさせていただき、主力商品であり常温保存ができる煮

卵「もうたま卵」の成り立ちをお聞きし、製造過程の厳密な検査や製品の種類の多さについて説明していただきました。他にも多くのメーカーからレトルト食品の製造を依頼され、多数生産されておりました。

(4) 「阿智村ジビエ加工施設」視察

山間地で捕獲された鹿の処理を現場でスピーディーに行い短時間で加工施設に搬入し、レーンにのせて工程ごとに決められた場所で清潔な道具で解体作業が行われ、部位ごとに保管されています。廃棄されやすい部位は、ペットフードとして加工・販売され、鹿の皮は、飯田市内の皮加工メーカーに出荷されています。

(5) 「株式会社 メルセン」視察

動物の「皮」が製品として使える「革」になるまでの工程をすべて見学させていただきながら、工程ごとの大変なことを詳しく説明していただきました。牛革をはじめとする高品質な本革のなめし仕上げを軸に、インテリア用・自動車・航空機用及び革小物などの幅広い革製品を製造されております。「メルセン」が開発・販売している犬用商品で有害鳥獣として捕獲されたニホンジカを活用した犬用おやつ「シカチュウ」を手作業で製造されております。

(6) 「カネシゲ農園」視察

2015年にカネシゲ農園から農作物加工部門を独立し「株式会社 道」を設立された櫻井社長から説明していただきました。2022年にクラフトビール醸造・キャンプ場運営を始められ、2026年8月1日より道の駅「信濃路下條そばの城」に店舗をオープンされ、昼神温泉内にも飲食店を持ちたいという事業展開についてもお聞きしました。

3. まとめと提言

以上の経過を踏まえ、次の提言をいたします。

(1) 阿智村産ジビエ事業の推進に関する政策提言

(2) 阿智村果実酒事業の推進に関する政策提言

阿智村産ジビエ事業の推進に関する政策提言

(1) 高品質な阿智村産ジビエの安定供給とブランド化

現在本村において鹿・猪による農林業被害は深刻な問題であり、その対策として個体数調整は喫緊の課題である。村内の高度な加工施設を最大限に活用し「捕獲後1時間以内の処理」「徹底した血抜き」「厳格な温度管理」をマニュアル化し、野生鳥獣特有の臭みを排除した高品質な精肉を安定供給できる体制を維持・強化するとともに、市場における信頼とブランド価値の向上を図ること。

(2) 鹿皮を活用した地域特産品（ふるさと納税の返礼品）の開発

現在、外部に売却している鹿皮の付加価値を高めるため、地場産品基準（ふるさと納税の返礼品に関する基準）の改正動向を注視しつつ、村内での加工・製品化の可能性を模索することにより単なる原材料供給から、ストーリー性のある「阿智村ブランド」の返礼品・特産品開発へとシフトするための課題整理と民間との連携を進めること。

(3) ターゲットを絞ったペットフード事業による資源完全循環とコスト削減

廃棄コストの削減と資源の有効活用に向け、精肉として利用できない部位のペットフード化を進めるとともに競合の多い市場であるため、一般的な量産品ではなく「阿智村の大自然が育んだ安心・安全・無添加」を強みに、健康志向のプレミアムペットフード市場など明確なターゲット（差別化戦略）を定めて参入を図ること。

阿智村果実酒事業の推進に関する政策提言

(1) 「天空のヴィンヤード（ブドウ畑）」とイベント化

単に農地を活用するだけでなく、「標高が高い＝空に近いブドウ畑」という物語性を持たせました。法人と連携して「ブドウの苗木のオーナー制度」や「収穫体験イベント」等を行うことで、生産段階からファン（関係人口）を村に呼び込むことを検討する。

(2) 鹿革ホルダーやパミスペットフードによる「ジビエ連動」

ジビエ施策で出てきた「鹿皮」をワインホルダー（あるいはグラスコースター）に加工してワインとセットにすることで、ジビエ事業とワイン事業での相乗効果を発揮することができる。また、ワインの搾りかす（パミス）はペットの健康にも良いとされるため、ジビエペットフードに混ぜることで「阿智村ならではの贅沢なサステナブルフード」という強い商品力を持った商品の開発も視野に入れて行うこと。

(3) 「星降る夜のワイナリーバー」という体験価値

洗練された空間とサービスを想定。昼は昼神温泉や自然を楽しみ、夜は「星空×ジビエ×自家製ワイン」という三拍子揃った唯一無二のエンタメ空間を作ること、で、「夜にやることがない」という温泉地の課題（ナイトタイムエコノミー）を解決するような施策を検討すること。